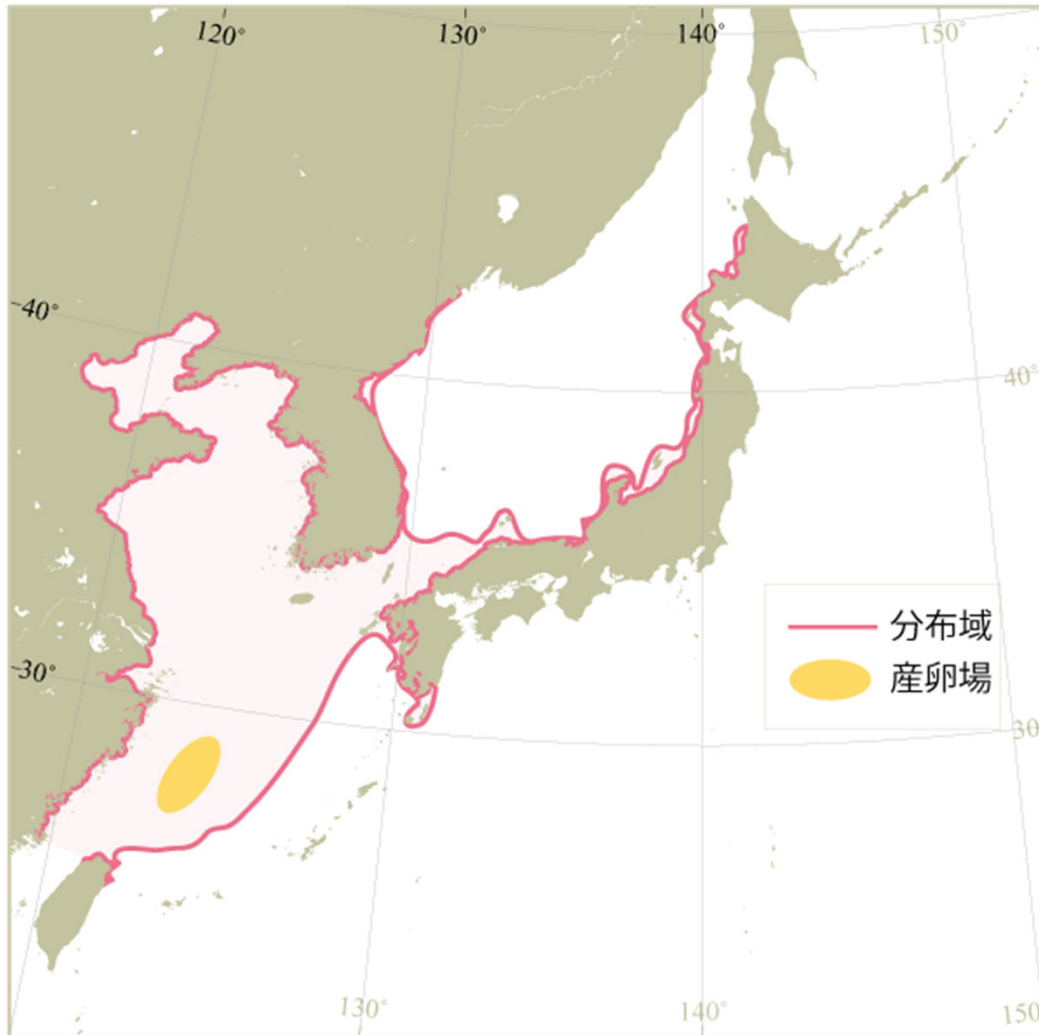




ウマツラハギ  
日本海・東シナ海系群  
令和7年度資源評価結果

# 生物学的特性

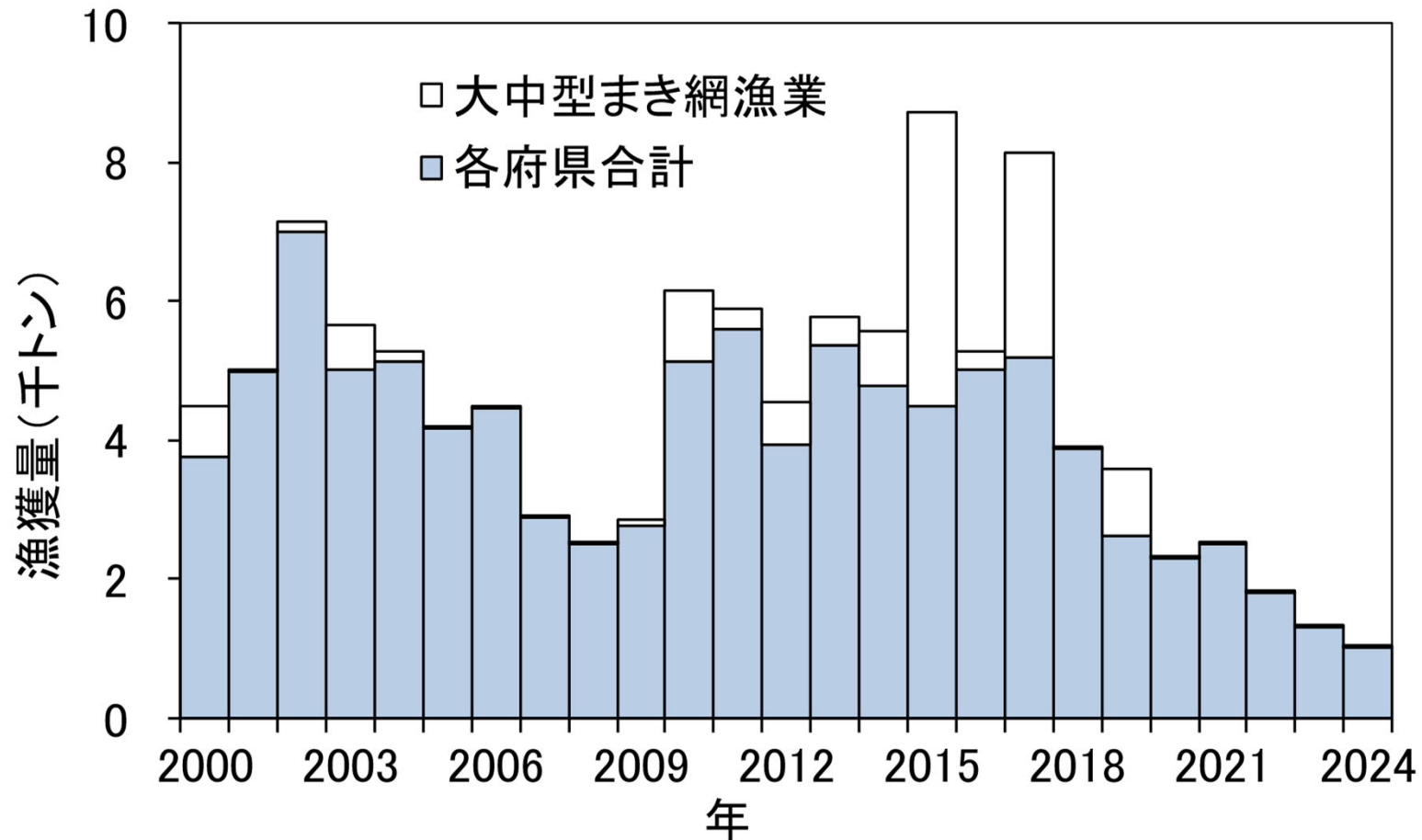


## 生物学的特性

- 寿命：10歳
- 成熟開始年齢：筑前海で雌雄ともに1歳（率不明）、新潟県沿岸の雌で1歳（率不明）、東シナ海の雌で2歳（率不明）、3歳（53%）、4歳（90～100%）
- 産卵期・産卵場：東シナ海域では4～6月、日本沿岸では5～7月
- 食性：カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、鉢クラゲ類、石灰藻を含む紅藻類および珪藻類
- 捕食者：魚類、頭足類等

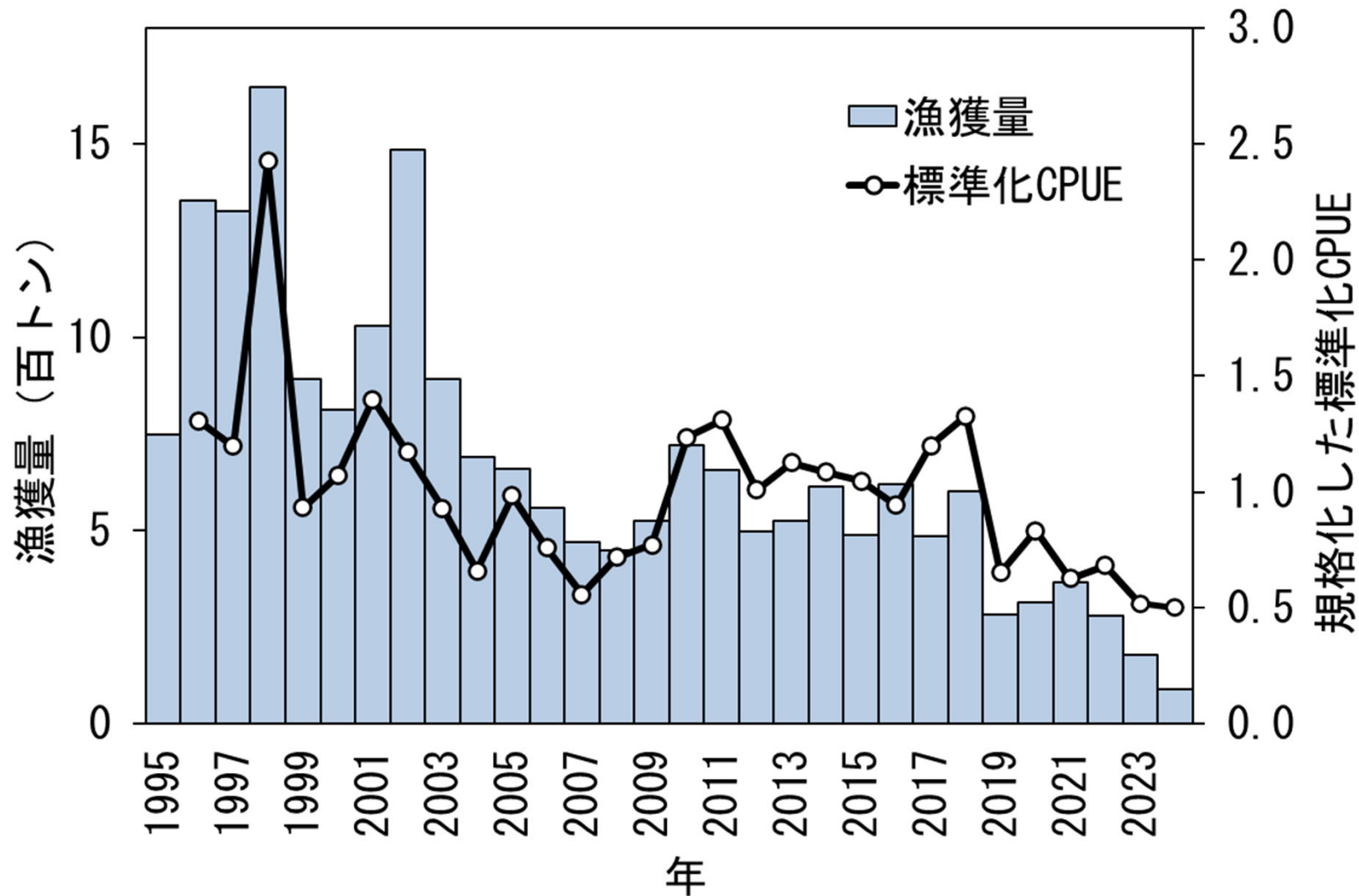
- 我が国周辺および東シナ海、黄海に分布
- 海域により成長が異なる

# 漁獲の動向①



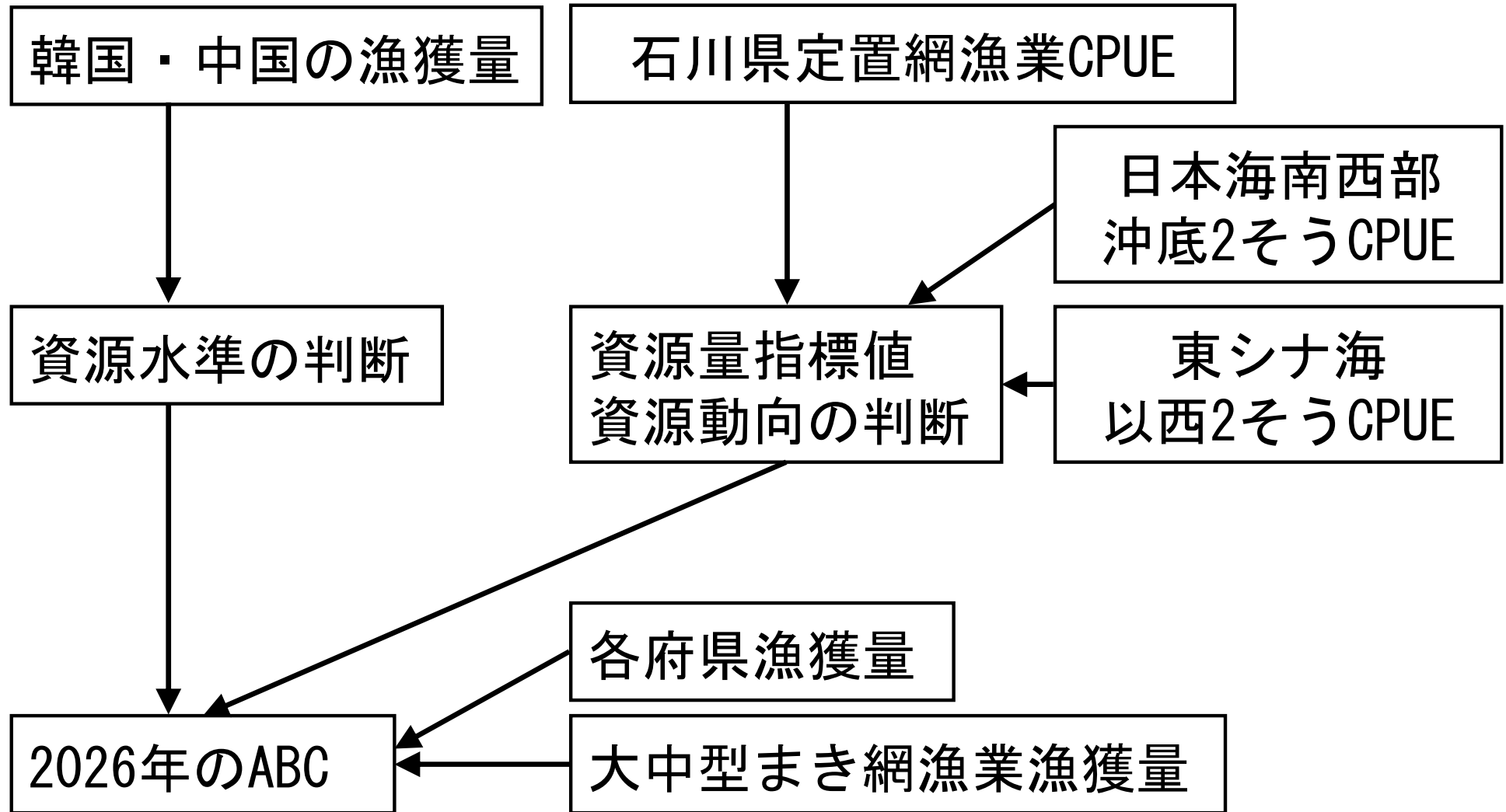
- 2018年以降のかわはぎ類（カワハギ含む、大半はウマヅラハギ）の各府県漁獲量は減少傾向
- 大中小型まき網漁業の水揚げ量は年変動が大きい
- 2024年の漁獲量：1,026トン

## 漁獲の動向②



- 石川県における定置網漁業のウマヅラハギ漁獲量と単位努力量あたりの漁獲量 (CPUE)
- 1998年以降、漁獲量とCPUEともに緩やかに減少

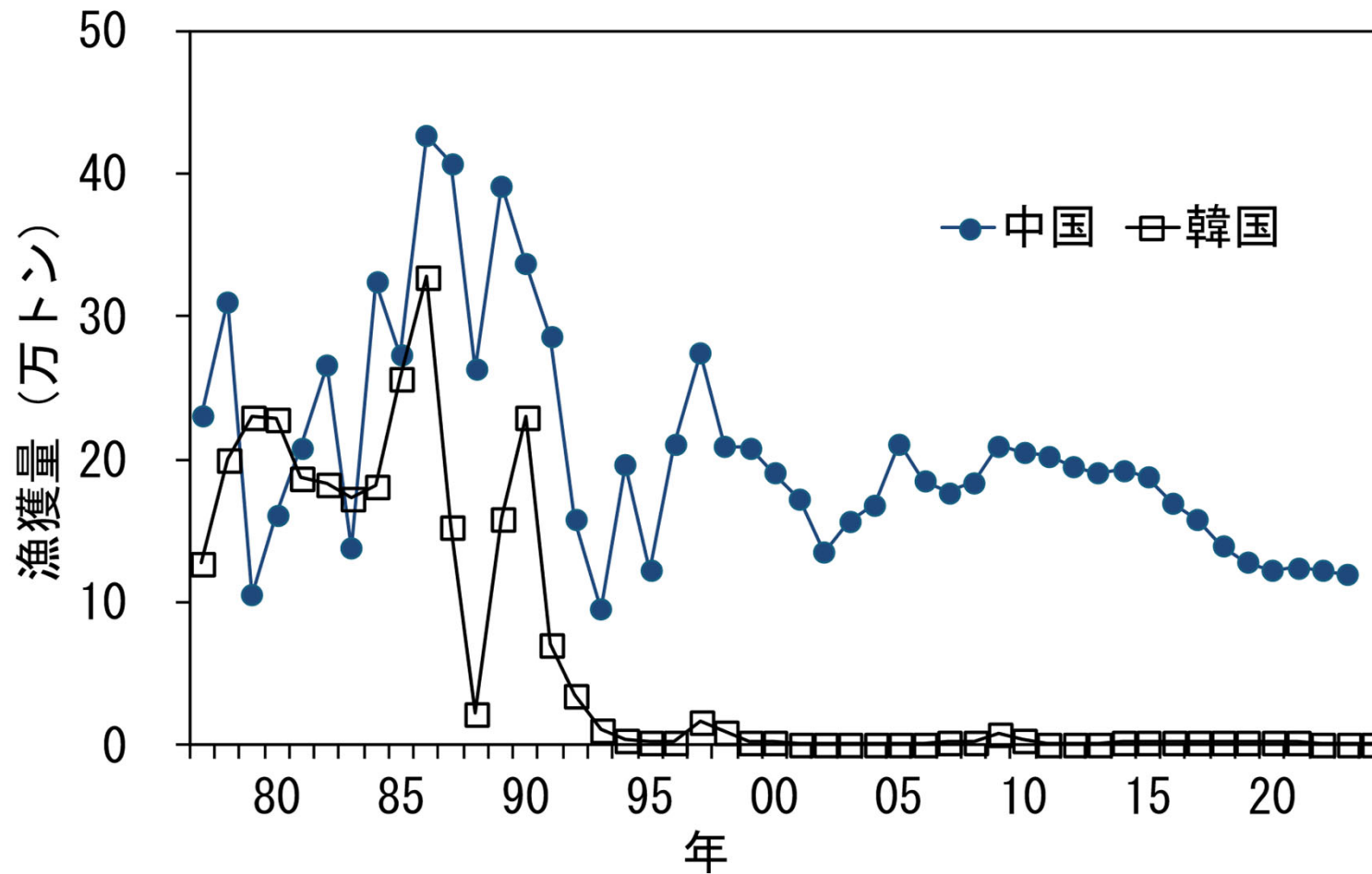
# 資源評価の流れ



※ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

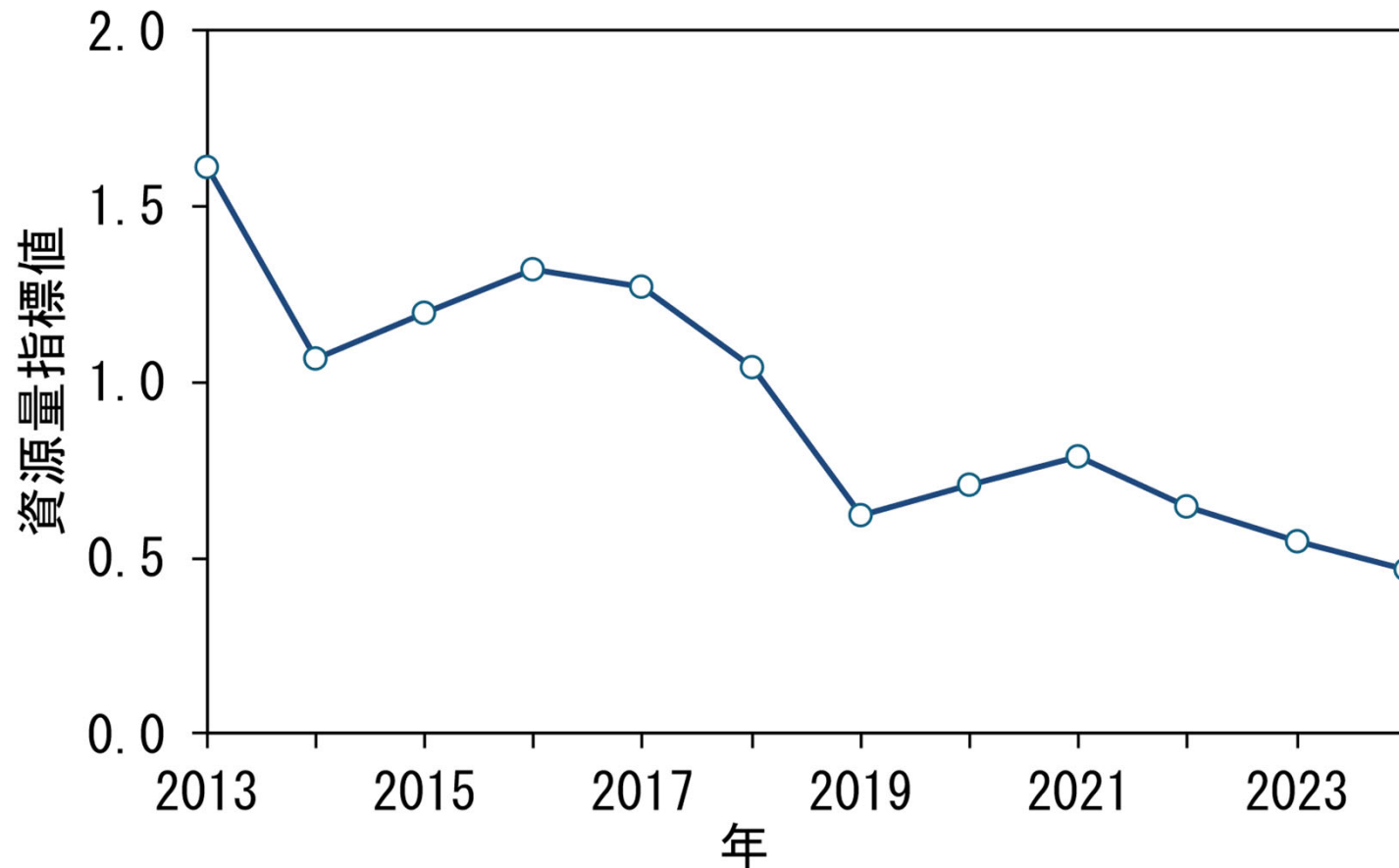
※各漁獲量・CPUEは2024年までのデータを使用（中国の漁獲量は2023年まで）

# 資源の動向①



- 1986年のカワハギ類漁獲量は中国と韓国合わせて75万トン
- 1992年以降低い水準で推移
- 資源水準：1992年以降の、韓国と中国の合計漁獲量が低水準で推移していることから「低位」

## 資源の動向②



- 資源量指標値：石川県における定置網漁業CPUEと日本海南西部の沖合底びき網CPUEおよび東シナ海の以西底びき網CPUEの相乗平均から算出
- 資源動向：直近5年間（2020～2024年）の資源量指標値の推移から「減少」

# 資源評価のまとめ

- ウマヅラハギ日本海・東シナ海系群の資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 漁獲量および標準化CPUEに基づいて資源状態を判断

## 2026年ABC

管理基準	Target/Limit	2026年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.84	Target	7	—	—
	Limit	8	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1) により、  
 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Cave3\text{-yr} \cdot \gamma_1$  で計算
- $\delta_1$  : 0.7 (低位水準で平均漁獲量使用時の推奨値)
- Cave3-yr : 直近3年間 (2022~2024年) の平均漁獲量
- $\gamma_1$  : 0.84 (直近3年間の資源量指標値の傾きと平均値より算出)